



市場が注目の

9月FOMCプレビュー

9月19-20日に開催されるFOMCは、当面の金融市場にとって最大の注目イベントとなりそうです。今回の会合で注目すべきはどのような点なのか、それ以前にそもそもFOMCとはどういう会合なのかも併せて、簡単に見てみましょう。

<POINT>

- FOMCはFRB(米国の中央銀行)の金融政策を決める会合
- 今回は「利上げ有無」と「政策金利の先行き予測」が注目点
- 利上げは「見送り」との予想が多い
- 先行き予測では、「引き締め強化」「従来通り」「引き締め終了」などの見通し・思惑から相場に影響を与える可能性あり

そもそも、FOMCとはどういう会合なのでしょう？

FOMCとは？

- FOMCとは「Federal Open Market Committee(連邦公開市場委員会)」の略で、FRBが政策金利や金融調節といった**金融政策を決める会合**です。
- 議決権のあるメンバーは12名で、議長を含むFRBの理事7名のほか、全米に12ある地区連銀の総裁から5名が年ごとに持ち回りで担当します(NY連銀総裁のみ常任)。議決権のない連銀総裁も会合に参加します。
- 原則として**年8回開催**されます。必要な場合には**臨時に開かれる**こともあり、コロナショックで市場が動揺した2020年3月には3回開催され、迅速な対応がなされました。
- **3、6、9、12月の会合**では、先行きの政策金利や成長率など**経済見通し**が示されます。

2023年のFOMC開催日程

開催日	備考	開催日	備考
1月31日～2月1日	0.25%利上げ	7月25日～26日	0.25%利上げ
3月21日～22日	0.25%利上げ・経済見通し公表	9月19日～20日	【今回】経済見通し公表
5月2日～3日	0.25%利上げ	10月31日～11月1日	
6月13日～14日	利上げ見送り・経済見通し公表	12月12日～13日	経済見通し公表

(出所)FRBよりちばぎんアセットマネジメント作成

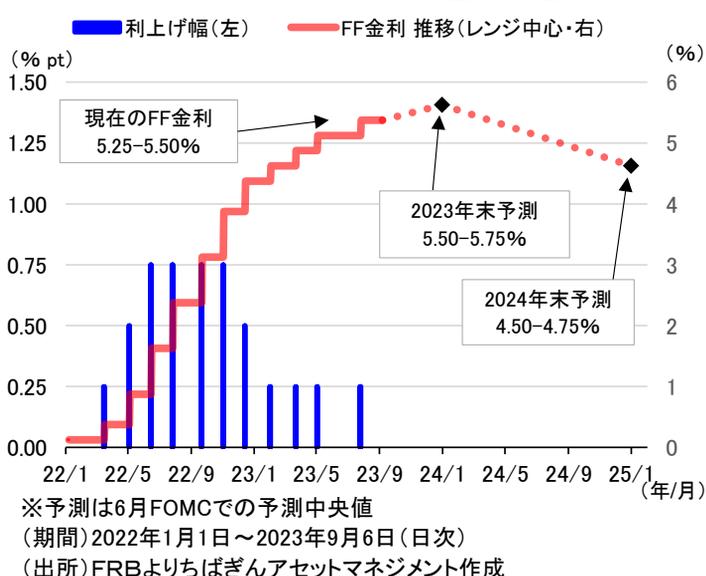


9月のFOMCではどういった点が注目されますか？

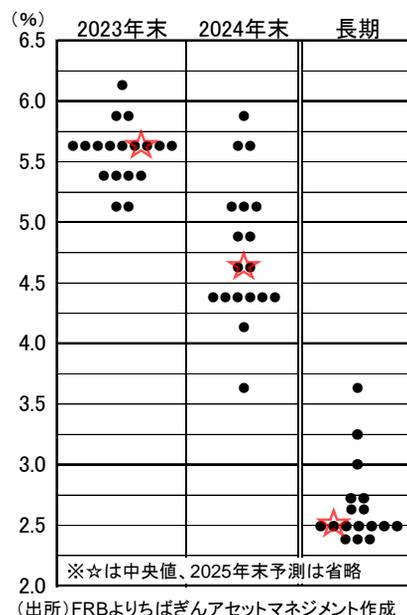
9月会合の注目点

- 7月会合では0.25%の利上げを実施しましたが、今回は**見送りが予想**されています。
- 政策決定とあわせて公表される経済見通しの中で、特に政策金利（FF金利：フェデラル・ファンド・レート）の先行き予測が注目されます。
- 2026年までの各年末と長期的に妥当な水準の見通しが示されますが、**今年末の水準は追加利上げの有無、来年末の水準は利下げの開始時期やペースを見極める材料**となります。また、**長期の水準が変わる場合は構造的な変化の可能性**もあります。
- 各メンバーの予測の**中央値**が重要視されますが、併せて示される予測値の分布図「**ドットチャート**」で、上振れ・下振れなどメンバー間の予測の違いも注目されそうです。

FOMCでの利上げ幅と政策金利の推移



6月FOMC時点のドットチャート



市場への影響は？

追加利上げや**来年の利下げが小幅**、また**長期の予測が上昇**した場合などは、**引き締め姿勢の強化**と言えます。**金利上昇要因**となるほか、**将来の景気後退リスクが高まる**ことなどから、**株価下落要因**となりそうです。一方、**利上げ終了**が示唆されれば**金利低下要因**となるほか、**従来通り**の場合でも株式市場にとっては**買い安心感**につながる可能性もあります。

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に記載された当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。